



2025年2月21日

各位

会社名 サイバートラスト株式会社
代表者名 代表取締役社長 CEO 北村 裕司
(コード番号：4498 東証グロース)
問合せ先 取締役 常務執行役員 CFO 清水 哲也
(TEL 03-6234-3800)

2025年3月期第3四半期決算に関する質疑応答集2

当社の2025年3月第3四半期決算に関して、当社で想定していました質問および発表以降に株主・投資家などの方々からいただいたお問い合わせ、感想および当社からの回答をまとめましたので以下の通りお知らせいたします。

なお本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に、当社が自主的に実施するものです。皆様のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆修正を行っております。

Q1 認証・セキュリティサービスの主要なリカーリングサービスの状況について教えてください。また、どのサービスが1番伸びていますか？

A1 認証・セキュリティサービスのリカーリングサービスのうち最も伸びているのは「iTrust」になります。デジタル技術の進歩や電子化に伴う法制度の改正が進むことで電子的な本人確認や電子署名の需要が拡大しており、当社では高成長牽引サービスの一つとして位置付け注力しています。サーバー証明書「SureServer」は長期間提供している安定した収益基盤となるサービスですが、市場が成熟段階に入り、成長は横ばいまたは微減の傾向にあります。これはプロダクトライフサイクルの観点から見てコモディティ化が進行しているためです。もっとも、当社は以前よりこの傾向を予測し、デバイス ID や iTrust のように新規成長分野のサービスを進めており、デバイス ID は「SureServer」を上回る規模にまで成長し、「iTrust」も上記の通り成長が継続しております。

Q2 コロナ禍でデバイス ID が大きく伸びた印象がありましたが、今の市場感はどうですか？

A2 コロナ禍におけるリモートワーク普及等を背景に急成長を遂げ、現在も緩やかながらも安定的な成長を続けております。これまでエンタープライズ市場が中心でありましたが、新たに教育分野への市場拡大も期待しております。具体的には、GIGA スクール構想第2期（GIGA2）の開始により、教育現場でのセキュリティ需要が高まっており、例えば、荒川区の教育委員会では小中学校へのデバイス ID 導入が実現しました。これは教育分野における重要なケーススタディとなるため、文教市場に強みを持つパートナー企業との連携を強化し全国への展開を目指しております。なお、GIGA スクール構想第1期では主にハードウェアの導入に焦点が当てられていましたが、第2期ではセキュリティ対策への重要性が強く認識されるようになったことが背景として理解しております。

Q3 iTrust (e シール) はどのように利用されていて今後どのような成長が期待できますか？

A3 iTrust (e シール) は、組織が発行する各種証明書や請求書や領収書などの電子化に対応するもので、iTrust の成長を促進する新しいサービスとして期待しています。

例えば、大学の卒業証明書の電子化において大学が発行したことを証明するために利用されています。PDF 形式の証明書に当社の「iTrust e シール用証明書」を付与することで発行元の大学を確認できる仕組みになっています。

既に EU では eIDAS 規則で、e シールを含むトラストサービスが法制度化されており e シールが利用されていますが、国内でも総務省が e シール認定制度を 2025 年度に運用開始予定であり、より利用増加が予測されます。市場の立ち上がりに先駆けて、当社は e シールの運用に必要なソリューションを展開する企業との協業を一層強化してまいります。

* iTrust®は当社の登録商標です。

* その他本文書に記載されている会社名、製品名、サービス名は、当社または各社、各団体の商標もしくは登録商標です。

以上